

科 目	解剖学VI	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス」 医学書院 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社など適宜
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	復習をし、他の科目との関連性に留意しながら授業に臨むこと。

科目の目標	解剖学の概要、組織学、内臓系、神経系・運動器各論での構造と関連する機能を学習し、人体の各局所構造を理解し、臨床科目や鍼灸実技に活用できる知識を構築する。
授業概要	人体を構成する組織、各器官の各部位・各臓器の名称を把握する。 また、各器官のつながりや走行などの局所解剖としての位置関係と機能を理解する。

日程

回数	授業内容
1	解剖学概論 生体の区分, 細胞
2	解剖学総論 組織, 器官, 器官系
3	循環器①
4	循環器②
5	呼吸器
6	消化器①
7	消化器②
8	泌尿器
9	生殖器
10	内分泌器
11	中枢神経
12	末梢神経
13	感覚器
14	運動器・局所解剖
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気が見える」シリーズ(メディックメディア) Vol. 2循環器, vol. 4呼吸器, vol. 5血液, vol. 6免疫・膠原病・感染症
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態の理解を目標とする為, 単語を暗記する作業に陥らないように注意する事.

科目の目標	臨床医学各論の分野における, 感染症, 循環器疾患, 血液造血器疾患, 呼吸器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す.
授業概要	配布物を中心に, 各疾患についての概念, 症状, 診断, 治療, 経過予後を学習する.

#### 日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 循環器疾患1(心臓疾患1)
2	循環器疾患2(心臓疾患2)
3	循環器疾患3(冠動脈疾患, 動脈疾患, 血圧異常)
4	呼吸器疾患1(感染性呼吸器疾患(風邪症候群・肺炎・肺結核))
5	呼吸器疾患2(閉塞性呼吸器疾患, 拘束性呼吸器疾患)
6	呼吸器疾患3(その他の呼吸器疾患(悪性腫瘍・機能性疾患))
7	感染症1(総論/細菌感染症)
8	感染症2(細菌感染症/ウイルス感染症)
9	感染症3(ウイルス感染症/食中毒(細菌性・ウイルス性・原虫性))
10	感染症4(性感染症)
11	血液・造血器疾患1(赤血球疾患)
12	血液・造血器疾患2(白血球疾患)
13	血液・造血器疾患3(リンパ網内系疾患, 出血性素因)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」 (メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」 (成美堂出版) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系, 循環系, 神経系, 筋・運動系など)の基礎知識について復習し, 不得意な領域をなるべく少なくしておく事. 病理学概論・臨床医学総論・臨床評価実習の範囲で扱う専門用語も同様に必要です.

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し, 症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を目指す.
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき, 各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する. 授業状況を鑑みながら, 進行速度を変化させる.

日程

回 数	授業内容
1	筋疾患: 重症筋無力症, 進行性筋ジストロフィー, 筋強直性筋ジストロフィー
2	運動ニューロン疾患: 筋萎縮性側索硬化症, 多発性硬化症
3	認知症性疾患: 認知症 (アルツハイマー型認知症, レビー小体型認知症, 脳血管型認知症, ピック病)
4	感染性疾患: 髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど), 細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
5	基底核変性疾患: パーキンソン病, ハンチントン舞踏病, 脳性小児麻痺, ウィルソン病
6	その他変性疾患: 脊髄小脳変性症, 脊髄空洞症, 進行性核上性麻痺, パーキンソニズム
7	脳・脊髄腫瘍: 脳腫瘍, 神経膠腫, 髄膜腫, 転移性脳腫瘍, 下垂体腺腫, 神経鞘腫, 脊髄腫瘍

8	脳血管疾患①：脳梗塞(脳血栓／脳塞栓)，一過性脳虚血発作
9	脳血管疾患②：脳出血，クモ膜下出血
10	復習①：確認問題と解答・解説
11	末梢神経障害：圧迫性・絞扼性ニューロパシー，ベル麻痺，ラムゼーハント症候群
12	神経痛：三叉神経痛，肋間神経痛，坐骨神経痛，後頭神経痛
13	機能性疾患：緊張型頭痛，片頭痛，群発頭痛
14	復習②
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	定期試験による。
留意事項	医療倫理とは何か，自身で考えを持って授業に参加すし、発表する。

科目の目標	医療者に求められる倫理とは何か、現在の医療の問題点とは何かを自ら考える
授業概要	医療者としての必要な倫理観と問題意識をクラス全体で考えていく。

日程

回 数	授業内容
1	医療の倫理と職業倫理
2	終末について
3	臓器移植について
4	医療の問題
5	発表
6	発表
7	定期試験
8	総括

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特になし
成績評価	定期試験
留意事項	法律は毎年改正されます。過去資料の使用には十分注意すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 教科書を持参すること。

科目の目標	医療従事者として必要な法律の知識を理解し、携われる業務の境界線を理解する。
授業概要	法律の仕組みと、あはき師法、医療法、医師法を含む諸法規の知識を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	法律とは あはき師法とは
2	あはき師法 詳細
3	あはき師法 詳細
4	諸法規
5	諸法規
6	まとめ
7	定期試験
8	解答解説

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技く基礎編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書・プリントは指示がなくても毎回すること。 授業内容を復習すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 鍼灸療法の禁忌やリスク、副作用について理解し把握すること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、概論
2	リスク管理(感染症対策)
3	鍼の基礎知識①
4	鍼の基礎知識②、刺鍼の方式と術式①
5	刺鍼の方式と術式②
6	特殊鍼法
7	灸の基礎知識
8	灸術の種類
9	鍼灸の臨床応用①
10	鍼灸の臨床応用②
11	鍼灸の臨床応用③
12	リスク管理①
13	リスク管理②
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学 [経穴編]」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
成績評価	定期試験による評価		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。 進行状況に応じシラバスは前後します。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識 (経絡名・経穴名・取穴部位) を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体, イラストを使用した形式で実施する。繰り返し同じ図を用いることで印象を深めていく。授業開始時に小テストを実施し, 理解度を確認する。

日程

回数	授業内容
1	1章 経絡・経穴の基礎, 2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
4	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経③
5	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
11	2章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
12	2章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
13	2章 十四経脈とその経穴 督脈, 任脈
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	東洋医学概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	適宜, 紹介をする.
成績評価	小テスト1回(10%)・定期試験(90%)の結果を主とし, 授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする.
留意事項	遅刻・欠席をしないこと. 復習する習慣をつけ疑問を持ち越さないこと.

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び, 専門用語を理解する. 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し, 国家試験や臨床に応用する力をつける.
授業概要	東洋医学の歴史や哲学, 人体の見方やその生理・病理を学ぶ.

#### 日程

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴: 東洋医学の沿革・人体の見方・東洋医学的治療
2	第3章 東洋医学の思想: 陰陽学説
3	第3章 東洋医学の特徴: 五行学説
4	第2章 生理と病理: 生理物質と神(精、気・1)
5	第2章 生理と病理: 生理物質と神(気・2)
6	第2章 生理と病理: 生理物質と神(血)
7	第2章 生理と病理: 生理物質と神(津液)
8	第2章 生理と病理: 生理物質と神(神)
9	第2章 生理と病理: 生理物質と神(人体における陰陽)
10	第2章 生理と病理: 蔵象学説、五臓とその機能に関連した領域(肝・1)
11	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(肝・2)
12	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(胆、心・1)
13	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(心・2)
14	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(小腸)、定期試験に向けて
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと (欠席-4点、遅刻・早退-2点、ふさわしくない身だしなみ-2点)

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ①
7	部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ②、刺入練習 (刺鍼練習器など) ①
8	刺入練習 (刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習 (各自：大腿部) ①
10	刺入練習 (各自：大腿部) ②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（まとめ）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	実技試験(70%), 課題提出(30%), 出席状況, 授業態度, 身だしなみによる総合評価。実技試験が6割未満の者, もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ-2点)。 体調をしっかりと管理し, 遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席-4点, 遅刻・早退-2点)。 授業中のスマートフォンの利用は原則禁止とする。使用を注意された場合は4点の減点とする。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び, 施灸の基礎技術を習得する。

実務経験	往診にて鍼灸治療を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 実習上の諸注意, 備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方, リスク管理)
5	施灸練習(点火)①, 課題説明
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	試験のフィードバック
1 6	再試験・総復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	野呂 賢二	教員区分	一般教員

教科書	適宜資料を配布
参考書	授業中適宜紹介
成績評価	試験、欠席、遅刻、小テスト、授業態度による総合評価。(課題レポート点数と小テストの点数を100点満点で評価し、授業態度、欠席、遅刻などはマイナス評価とする) 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。
留意事項	遅刻や欠席をしないこと。正当な理由がない場合はマイナス点の評価になる。 スマホや授業以外の行為をしているものや授業に参加していないと見受けられたものマイナス点の評価となる。復習を行うこと。 ※授業内容は進行状況で一部変更することもある。

科目の目標	トレーニング知識を養うことで子供から高齢者まで幅広い年齢層に対して健康指導ができるようになる。
授業概要	運動機能を理解し自ら体験することで体力、健康、美容の向上を図っていく。

日程

回数	授業内容
1	体力学総論
2	トレーニングの原則
3	筋力トレーニング概要
4	運動生理学
5	ストレッチング①
6	ストレッチング②
7	ストレッチング③
8	上肢の筋力トレーニング
9	下肢の筋力トレーニング
10	スポーツ傷害
11	評価・プログラム設計実践①
12	評価・プログラム設計実践②
13	評価・プログラム設計実践③
14	課題テスト
15	課題テスト
16	まとめ

科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参考書	「新版 東洋医学概論」 「西洋医学史 ハンドブック」 「まんが 医学の歴史」	(公社)東洋療法学校協会編 ディッター・ジェッター 茨木保 著	(医道の日本社) (朝倉書店) (医学書院)
成績評価	定期試験		
留意事項	教科書を必ず持参すること。 授業内容の復習を心掛けること。		

科目の目標	西洋医学, 東洋医学, 日本の医学の変遷について理解を深める。 また, 現代の医療制度や医療倫理を理解する。
授業概要	医療の変遷を学習し, その全体像を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	医療概論とは・医学史
2	医学史
3	医学史
4	医学史
5	医療制度・倫理
6	医療制度・倫理 研究
7	定期試験
8	解答解説 発表

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	授業内で随時紹介する。		
成績評価	定期試験による評価。		
留意事項	1年時の経絡経穴概論の内容を復習しておくこと。		

科目の目標	経絡経穴の基礎知識を拡充し、臨床における選穴の基本を身に付ける。		
授業概要	各経脈の流注について詳細を知り、病証との関係を理解し、臨床応用の基礎を身に付ける。 要穴の種類とその意味、使用法について整理し身に付ける。 病証に応じた選穴法について学ぶ。主要な経外奇穴の部位と適応を習得する。 進行度に応じ、シラバスの内容は前後します。		

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 経絡経穴の歴史, 経絡とは, 選穴法の種類
2	循経取穴と経脈流注, 経脈病証①.
3	循経取穴と経脈流注, 経脈病証②. 要穴の概要
4	循経取穴と経脈流注, 経脈病証③. 要穴①
5	循経取穴と経脈流注, 経脈病証④. 要穴②
6	循経取穴と経脈流注, 経脈病証⑤. 要穴③
7	循経取穴と経脈流注, 経脈病証⑥. 要穴④
8	要穴の用法 交会穴
9	経験的選穴法 特効穴 経外奇穴①
10	奇経八脈の流注と病証・経穴①. 経外奇穴②
11	奇経八脈の流注と病証・経穴②. 経外奇穴③
12	奇経八脈の流注と病証・経穴③.
13	八脈交会穴 病証に応じた選穴法
14	総復習
15	定期試験
16	解説

科 目	東洋医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論<はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	東洋医学概論, 経絡経穴の知識が必要となる授業です。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し, 鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション/1年生の復習(臓腑, 生体物質の生理・病理)
2	1年生の復習(四診)
3	1年生の復習(弁証)
4	頭痛
5	治療穴とその応用/手技と手法
6	顔面痛/関節痛
7	頸肩腕痛/上肢痛/肩関節痛/膝痛
8	腰下肢痛/腰痛/下肢痛
9	胸痛/腹痛
10	眼精疲労/気分障害(うつ状態)
11	めまい/動悸・息切れ
12	血圧異常/睡眠障害
13	食欲不振/肥満
14	やせ(るい瘦)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)		
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」 矢野 忠 編集 (文光堂)		
成績評価	期末試験により評価する。60点未満の場合は再試験とする。		
留意事項	積極的に受講し授業内容を復習すること。関連する解剖学、生理学、臨床医学、経絡経穴も合わせて復習すること。教科書・プリントは指示がなくても毎回持参すること。進行状況によりシラバスの内容が変更される場合あり。		

科目の目標	レッドフラッグを含む疾患の鑑別ができるようになること、患者に対し病態、治療の効果およびリスク、予後、生活指導などが説明できるようになること、実際に適切に治療できるようになることを目標とする。
授業概要	疾患ごとに教科書に沿って解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回数	授業内容
1	疼痛概説、排尿障害、歩行異常
2	血圧異常、睡眠障害
3	食欲不振、肥満
4	便秘、下痢
5	咳嗽と喀痰、鼻閉・鼻汁
6	脱毛症、ED (勃起障害)
7	疲労と倦怠感、気分障害 (うつ状態)
8	冷え、のぼせ
9	浮腫、搔痒感 (痒み)、肌荒れ、発疹
10	月経異常、不妊症
11	つわり、骨盤位
12	小児特有の症候
13	老年特有の症候
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	進捗状況によりシラバスの日程は前後します。

科目の目標	鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。
授業概要	所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、徒手筋力検査①
2	徒手筋力検査②
3	徒手筋力検査③
4	徒手筋力検査④
5	反射検査①
6	反射検査②
7	反射検査③
8	感覚検査①
9	感覚検査②
10	脳神経の検査①
11	脳神経の検査②

1 2	脳神経の検査③
1 3	総復習
1 4	実技試験
1 5	フィードバックと評価
1 6	検査と評価のまとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)		
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曉明(医歯薬出版株式会社)		
成績評価	実技試験, 出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点), 授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。		
留意事項	経絡経穴概論の教科書を必ず持参すること。 必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み, 復習をすること。 肘先, 膝先をだせる服装で臨むこと。		

科目の目標	経絡の流注を理解し, 経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。		
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 確認テストによる知識の確認, 担当教員による局所解剖と取穴の説明・デモンストレーション, 各自での触擦・取穴を行う。		

#### 日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 足の厥陰肝経
2	足の少陽胆経
3	要穴①
4	要穴②
5	要穴③
6	要穴④
7	要穴⑤
8	要穴⑥
9	要穴⑦
10	要穴⑧

1 1	要穴⑨
1 2	要穴⑩
1 3	復習・まとめ
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触擦実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験, 出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点), 授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点), 授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者, あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。</li> <li>・1回完結の授業の為, できるだけ休まないこと。</li> <li>・授業中にできるだけ多くの人々の体を借りて, 経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。</li> <li>・臨床実習を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。</li> <li>・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。</li> <li>・触察部位の構造 (骨, 筋, 靭帯, 神経, 血管) を必ず復習しておくこと。</li> </ul>

科目の目標	「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し, 障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および患者を想定した, 触診 (触り方) を習得する。さらに, 体格 (男女や筋の発達度合い, 脂肪の量など) による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて, 各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し, 感触を経験した後に, 各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	横刺, 通電機器説明および物理療法の禁忌と適応. 前頭筋・前脛骨筋触擦
3	肩こりの診察および触擦: 僧帽筋(上部線維), 肩甲挙筋
4	頸肩腕痛の診察および触擦①: 頸椎棘突起および椎間関節
5	頸肩腕痛の診察および触擦②: 頸椎横突起, 前・中斜角筋, 小胸筋, 鎖骨下筋
6	肩関節痛の診察および触擦: 肩甲骨, 三角筋, 棘上筋, 棘下筋, 大・小円筋, 広背筋, 結節間溝
7	肘痛の診察および触擦: 上腕骨外側上顆, R-H ギャップ, 総指伸筋, 腕橈骨筋
8	腰部痛の診察および触擦 1: 第 12 肋骨先端, 多裂筋, 鼠径靭帯筋裂孔 (腸腰筋)
9	腰部痛の診察および触擦 2: 腸骨稜, 腰椎棘突起, 上後腸骨棘, 仙骨上縁, 第 12 肋骨先端, 腰椎椎間関節, 大腰筋, 腰方形筋
10	下肢痛の診察および触擦: 大腿骨大転子, 梨状筋, 大腿二頭筋長頭・短頭, 半腱様筋, 半膜様筋, 下肢動脈触診
11	膝痛の診察および触擦: 大腿骨および脛骨内側・外側上顆, 大腿四頭筋, 縫工筋, 薄筋, 大・長内転筋, 膝窩筋
12	下腿痛の診察および触擦: 前・後距腓靭帯, 踵腓靭帯, 長・短腓骨筋, 前脛骨筋, 腓腹筋, ヒラメ筋
13	実技試験①
14	実技試験②
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸応用実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験, 出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点), 授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点), 授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者, あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。</li> <li>・1回完結の授業の為, できるだけ休まないこと。</li> <li>・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて, 経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。</li> <li>・臨床実習を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。</li> <li>・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。</li> <li>・刺鍼部位の構造 (骨, 筋, 靭帯, 神経, 血管) を必ず復習しておくこと。</li> </ul>

科目の目標	「現代医学臨床論 I」 で学習した各部位における症候に対し, 障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに, 男女や筋の発達度合い, 脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて, 各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し, 鍼尖の感触を経験した後に, 各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	付属鍼灸院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な刺鍼方法：大腿四頭筋，郛門穴付近
2	鍼通電療法(EAT)の実際，顔面部刺鍼：前脛骨筋，前頭筋
3	肩こりの刺鍼：僧帽筋(上部線維)，肩甲挙筋
4	頸椎症の刺鍼：頸部椎間関節
5	胸郭出口症候群の刺鍼：前・中斜角筋，小胸筋，鎖骨下筋
6	肩痛の刺鍼：三角筋，棘上筋，棘下筋，大・小円筋，上腕二頭筋長頭腱
7	肘痛の刺鍼：総指伸筋(4指線維)，腕橈骨筋，R-H ギャップ
8	腰部痛の刺鍼1：腸腰筋(衝門穴)，多裂筋
9	腰部痛の刺鍼2：腰椎椎間関節，大腰筋(帯脈穴付近)，腰方形筋
10	坐骨神経痛の刺鍼：梨状筋，坐骨神経
11	膝痛の刺鍼：大腿四頭筋，大・長内転筋，膝窩筋，膝窩動脈
12	下腿痛の刺鍼：長・短腓骨筋，腓腹筋(外側頭・内側頭)，ヒラメ筋
13	実技試験①
14	実技試験②
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	3
		時間数	135
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教員名	浅野 貴之 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～40回目までを前期，41～68回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装，態度で臨むこと。

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握，理解し，適切な行動，患者応対ができる。
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識，技術を学習する。 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ。

日程【前期】

回数	授業内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い 接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 鍼出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， 抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ</li> </ul>
2・3	
4	
5	
6・7	
8・9	
10・11	
12	
13・14	
15	
16・17	
18	
19・20	
21	
22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	

31・32	・オリエンテーション
33・34	・衛生管理, 施術所内の環境把握, 後片付け (原状復帰), 言葉遣い
35・36	・接遇, カルテ内容の把握, ワゴン準備, 施術ブース内の環境把握
37・38	・鍼出し, リスク管理, 患者誘導, タオルワーク, 血圧測定,
39・40	・抜鍼動作, 廃棄物の処理, 温灸の使い方, グループによるロールプレイ

科 目	解剖学Ⅶ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的におこない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回数	授業内容
1	解剖学総復習1
2	解剖学総復習2
3	解剖学総復習3
4	解剖学総復習4
5	解剖学総復習5
6	解剖学総復習6
7	解剖学総復習7
8	解剖学総復習8
9	解剖学総復習9
10	解剖学総復習10
11	解剖学総復習11
12	解剖学総復習12
13	解剖学総復習13
14	解剖学総復習14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総合論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント		
参考書	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「病理学概論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「東洋医学臨床論」	(公社)東洋療法学校協会編	(医道の日本社)
	「解剖学 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
成績評価	定期試験		
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。		

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総合論を中心に総合的に行う。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
10	臨床医学総合論⑩
11	臨床医学総合論⑪
12	臨床医学総合論⑫
13	臨床医学総合論⑬
14	臨床医学総合論⑭
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	経絡経穴概論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価 定期試験もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
10	取穴部位・要穴⑦
11	取穴部位・要穴⑧
12	奇経・奇穴など
13	頸部・顔面・頭部：取穴部位
14	取穴部位のまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	東洋医学概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
成績評価	定期試験		
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。		

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論Ⅰ、Ⅱの復習を行う。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・気・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
10	東洋医学的診察法と証の立て方 (難経六十九難等)
11	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
12	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	増田 眞英 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	各授業内で適宜紹介する。
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	様々な講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	鍼灸師としての知見，技術を深める。
授業概要	将来治療に必要な授業を学ぶことにより技術・知識を高める。

日程

回 数	授業内容
1	十七手技の基本（置鍼術）
2	十七手技の基本（雀啄術）
3	徒手検査①
4	徒手検査②
5	自然鍼灸学（自律神経調整）①
6	自然鍼灸学（自律神経調整）②
7	自然鍼灸学（自律神経調整）③
8	自然鍼灸学（自律神経調整）④
9	積聚治療① 概要、実技供覧
10	積聚治療② 理論、基本刺鍼
11	積聚治療③ 理論2、指標、腹部接触鍼
12	積聚治療④ 脈診、脈調整
13	積聚治療⑤ 腹部区分、腹診
14	積聚治療⑥ 背部区分、背部取穴
15	積聚治療⑦ 背部治療
16	積聚治療⑧ 背部治療、肩部治療、総復習

科 目	臨床応用実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。テーマに沿ってテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H. Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席 (1回欠席-6点・1回遅刻-2点), 授業態度, 実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため, できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め, 無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造 (骨, 筋, 靭帯, 神経, 血管) を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診, 刺激技術の更なる向上と, 様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための, 基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学, 生理学) と実技実習 (鍼基礎実習 I・II・III・IV, 臨床評価実習 I・II, 鍼灸応用実習 I・II) の知識と技術を基にして, 鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の, 基礎となるパルス治療, 特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション (鍼について, 灸について), 刺激 (基礎), リスクマネージメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方, 上肢, 上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方, 上肢, 上肢帯の経穴刺激法②前胸部, 上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方, 体幹部 (背部) 刺激法①
6	身体バランスの見方, 体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節) 刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿) 刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術, 組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点), 相応しくない身だしなみ(-4点), 授業態度, 実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠, 食事など)に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため, できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め, 無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨, 筋, 靭帯, 神経, 血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診, 刺激技術の更なる向上をはかる。特に, 経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術, 要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学, 生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ, 鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして, 鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について, 診察法概論(切診), 刺激の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(旋撚)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(催気)
12	体質別治療①

13	体質別治療②
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教員名	浅野 貴之 他	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～36回は前期での評価とし、37～48回は後期の評価とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装，態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握，理解し，適切な行動，患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識，技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い，知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識，技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回数	授業内容
1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い 接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 鍼出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， 抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ</li> </ul>
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

33 · 34	
35 · 36	

科 目	総合実践実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会) 「Essential oil Guide book」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会)
成績評価	期末試験で評価する。
留意事項	欠席せず取り組むこと。

科目の目標	アロマの実用的な知識と技術を身につける。
授業概要	アロマのクラフト作成やトリートメントを通してアロマの効能について理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, アロマの基礎知識①
2	アロマの基礎知識②, クラフト実習①
3	アロマの基礎知識③, クラフト実習②
4	アロマの基礎知識④, クラフト実習③
5	アロマの基礎知識⑤, クラフト実習④
6	アロマの基礎知識⑥, クラフト実習⑤
7	アロマの基礎知識⑦, クラフト実習⑥
8	トリートメント実習④
9	トリートメント実習⑤
10	トリートメント実習⑥
11	トリートメント実習⑦
12	トリートメント実習⑧
13	トリートメント実習⑨
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習